

張する産業側利害関係者による激しい反対にあった。これらの主張に対応して、クリソタイルの代替物質としてのバラ・アラミッド、ポリビニル・アルコール(PVA)、またはセルロース・ファイバーに目を向けた政府の研究プログラムが立ち上げられた。試験所での研究と産業界の実験は、PVAセメント屋根タイル製造及びアスベストから非アスベストへの技術転換は実行性があることを明確に示した。

インドネシア

世界ランキングでは、インドネシアは、アスベスト及びアスベスト材の輸入、製造、消費、輸出に関して世界第八位の国であり、二〇〇〇年から二〇〇四年の間に消費は二〇%増加した。インドネシア全土で、アスベスト・シートは容易に入手可能であり、最も安い材料のひとつとして多くの顧客が建材として選択している。七、七〇〇人以上の労働者がアスベスト関連産業で雇用されており、中皮腫の一症例が特定されている。カナダ、ブラジル、及びロシアから輸入されているクリソタイル・アスベストの大部分はアスベスト・セメント屋根材の製造に使用されている。^{**}

資金の潤沢なインドネシアのアスベスト圧力団体は、産業に対する潜在的な脅威に激しく反対している。二〇〇六年二月、ファイバー・セメント製造業協会は国際クリソタイル協会とカナダ大使館の後援の下に、いわゆる「国際的な科学シンポジウム」をジャカルタで開催したが、それはクリソタイルの使用に関して「安全使用」を推進するための宣伝行為以外のなにもでもなかった。そのシンポジウムのプログラムの表紙には国際クリソタイル協会、カナダ政府、及びクリソタイル協会のロゴが目立つように表示されていた。指導的なアスベスト専門家であり、カナダがフランスのアスベ

* [原注43] アスベスト輸入量は1999年から2004年の間に倍増した。最新のデータは、年間消費量が65,000トンであることを示している。2004年12月の津波の後で、「気前のよいある国(クリソタイルの大輸出国)がアスベスト含有材料をインドネシアに送った。」2006年5月、政府当局はもっと多くのセメントとアスベストがジョグジャカルタ市の地震後の復興に必要であると発表した。

** [原注44] Anti-asbestos Campaign Worries Indonesia Firms. Jakarta Post. March 3, 2006. 2004年の消費量データについて矛盾がある。アメリカ連邦地質調査所(USGS)はインドネシアの同年の消費量は51,000トンであるとしているが、産業界消息筋は70,000トンであると主張している。

「アスベストはそれが青であろうと茶であろうと白であろうと、人を殺す。それは致命的である。クリソタイルか角閃石系アスベストか、そのどちらかを選ぶということは電気椅子を選ぶか死の注射を選ぶかのようなものである…。」

国際建設・林業労組連盟(BWI)フィオーナ・ムーリー

ト禁止を世界貿易機関(WTO)に訴えた時にWTOのアドバイザーを務めたオーストラリアの病理学者ダグラス・ヘンダーソン博士を招待してこの会議で講演してもらおうとした試みは、即座に主催者によって拒絶された。しかし一年後には、労働組合運動家フィオーナ・ムーリーがジャカルタで国際労働会議開催中に「アスベスト禁止委員会」の討議に参加することとなり、状況は少ばかり改善された。このセッションの他の講演者は、産業側の「管理使用」方針の長所を絶賛したが、ムーリー女史は次のように述べた。

「一九八九年以来、国際建設・林業労組連盟(BWI)は、全ての種類のアスベスト―主に建材で使用されている―の世界的な禁止を強く訴えるという明確な方針を持っている。その理由は明確である。アスベストはそれが青であろうと茶であろうと白であろうと、人を殺す。それは致命的である。クリソタイルか角閃石系アスベストか、そのどちらかを選ぶということは電気椅子を選ぶか死の注射を選ぶかのようなものである…。BWIは、その研究を産業側から委託されているかあるいは産業側から支払いを受けているコンサルタントなどの、いわゆる『アスベスト専門家』から、しばしば繰り返される『管理使用』のリフレインを聞いてきたが、われわれは彼らのもっともらしい発見や宣伝に利用されているだけのものなど信用しない。BWIは、世界保健機関、国際がん

* [原注45] 2007年4月25日のセッションにおける講演者には、インドネシア労働力省及び、インドネシア雇用者協会からの代表も含まれている。